
寝てる際に

モノ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

寝てる際に

【Nコード】

N1027E

【作者名】

モノ

【あらすじ】

平次と和葉。平次のキャラが違いますけど、それでも良い人は読んでみてください。

(前書き)

初めての投稿です。

いつからかずっと想ってた。
俺の隣りに居るのは和葉であって欲しいと。

「ヘーjee、来たったで！」

部活が休みの土日には必ず俺の部屋に来る和葉。

「誰も来てくれなんて言うてへんねんけど？」

素直になるのが嫌でつい憎まれ口を叩いてしまう。

「なんやそれ！」

「はいはい。…てお前何ベッドに寝てんねん」

俺が椅子に座ってるのを良い事に和葉はベッドに寝転がる。ちよつとは俺の気持ちも考えて欲しいんやけど。

「寝るなら自分の家で寝たらええやん」

「どこでもええやろー」

「…どこでもよおないわ」

「…昨日あんま寝てへんねん」

「なんや、お前にしちや珍しいやん」

「考え事しとっ…て」

「ふーん…」

「う…ん」

だんだん和葉の声が消えていく。

もしやと思って、和葉の方を見たらスヤスヤと寝とった。

「…和葉さん？」

ありえへん。ほんまに寝てしもたみたいや。

「へ…いじ…」

寝言だとわかっていてもドキツとする。

ベッドの近くに行き和葉の顔を覗き込む。

「お前の傍に居るのは、俺だけでええのに」

届かない声を宙に浮かせて、少し悲しくなった俺はそっと和葉の髪を撫でた。

全てが自分のものになったらどんなに幸せやろうな。

せやけど、どうすればええかわからへん。

へんに傷付けて泣かせたくはない。

「俺らしくもないな」

自分の目の前で無防備に寝る幼馴染みを見て、苦笑いした。

「…今は起きんといてな」

俺だけの秘密やから、そう思って優しくキスをした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1027e/>

寝てる際に

2010年10月14日12時08分発行